

平成 18 年度決算における利益の状況について

1 平成 18 年度の法人経営の総括について

18年度は17年度の決算の反省を踏まえ、月次決算を実施し、期中においても経営状況を把握しつつ、17年度に比べ柔軟に法人の経営を実施することができました。

また、昨年度に引き続き経営改善を進め、運営交付金の削減、診療報酬のマイナス改定といった厳しい環境のなかで、約12億円の利益を生み出すことができました。

2 利益の状況

昨年度は、法人化初年度ということもあり、経常利益23億円、臨時利益15億円、合計で38億円の利益となりましたが、18年度は利益が平年度化され、経常利益、臨時利益ともに同額の12億円となりました。

利益の要因としては、附属2病院の医薬品費の削減をはじめとした経営努力、外部資金獲得などの自己収入の増加、契約手法の改善によるコスト削減など、概ね法人の経営努力により生み出されたものと考えております。

しかし、看護師の欠員に伴い、本来執行すべきであった人件費分についても12億円の利益のなかには含まれているという見方もでき、今後、更に詳細に利益分析を行う必要があります。

	法人			
		大学	附属病院	センター病院
経常利益	1,231百万円	306百万円	475百万円	450百万円
臨時利益	-	-	-	-
総利益	1,231百万円	306百万円	475百万円	450百万円

3 特徴的な経営努力について

(1) 附属2病院における診療収入の増加

診療報酬のマイナス改定のなか、平均在院日数の更なる短縮や病床利用率を高い水準で維持することなどにより昨年度を上回る医業収益を確保しました。特にセンター病院においては、7:1看護が認められたことにより医業収益が大きく増加しました。

			17年度決算	18年度決算
附属病院	入院	1日平均患者数	566人	565人
		平均在院日数	19.0日	17.8日
		診療単価	47,023円	47,378円
	外来	1日平均患者数	1,798人	1,882人
		診療単価	10,091円	9,563円
センター病院	入院	1日平均患者数	677人	675人
		平均在院日数	16.4日	16.0日
		診療単価	52,778円	53,507円
	外来	1日平均患者数	1,863人	1,859人
		診療単価	9,306円	9,825円

(2) 外部資金獲得の増加

昨年度に引き続き、受託研究収入や共同研究収入などの産学連携による外部資金の獲得が大きく増加しました。

		共同研究 収入	受託研究 収入	奨学寄附金 収入
18年度	件数	60件	56件	618件
	金額	123百万円	473百万円	552百万円
17年度	件数	51件	38件	556件
	金額	89百万円	419百万円	417百万円

(3) 複数年契約の推進・物品の一括購入推進

施設管理経費を中心として複数年契約の推進や事務部門で調達するOA機器や什器、消耗品等について一括契約を部分的に実施したことにより契約金額が低減され、コスト削減が図られました。

4 今後の課題について

(1) 月次決算の精度向上

18年度は月次決算が可能となり、期中の経営状況を把握しながら法人運営をすることができました。しかし、月次決算の精度を向上させることや、決算を見込みつつ計画的かつ有効に資金を利用することなどの課題も残っており、今後、更なる改善を行う必要があります。

(2) 医師・看護師不足対策

現在、全国的に医師不足（産科、小児科等）、看護師不足が顕在化してきています。附属2病院においても、経営改善の一方で職員一人ひとりの負担が増えており、職場環境や勤務条件の改善等、教職員のモチベーションを維持するために早急に何らかの対策をとる必要があります。特に附属病院においては7：1看護の取得・維持が喫緊の課題となっています。